

1. 万博工事期間中の交通影響等について ～前回（R5.10時点）から見直し・更新～

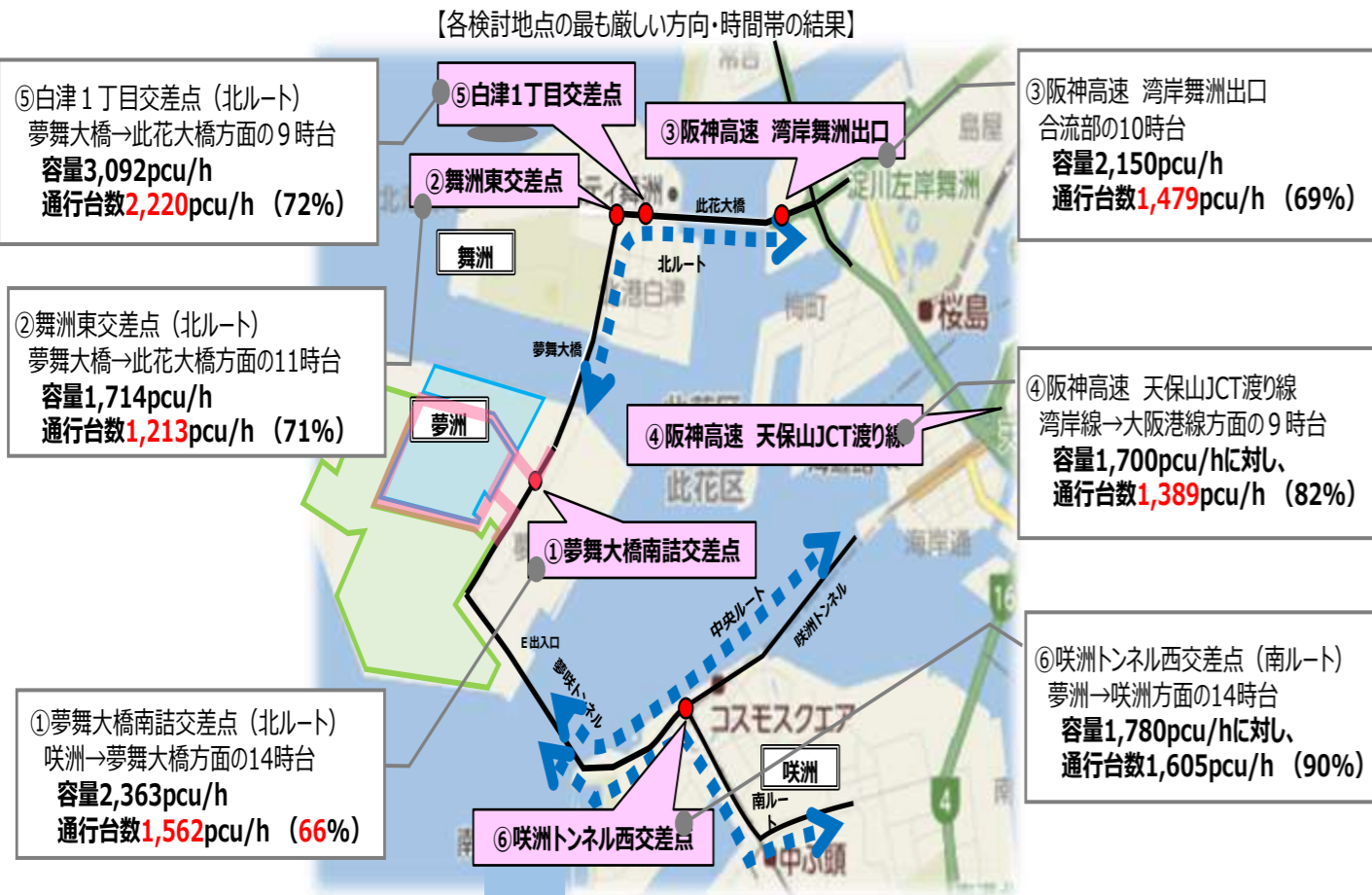
1-1 万博工事期間中の交通影響検討【資料3】

- タイプAの工事がスタートしており、**実勢に合わせて交通量予測を見直し**。
- 夢洲周辺の各ボトルネック交差点での**交通量は若干減少し、全ての地点で交通容量内に収まっている**（容量に対する割合は約66～90%）。
- 万博・IR工事の通勤車両は、工事車両等の通行の少ない時間帯（6・7時台、17・18時台）の通行であるため、影響は少ない。
- 引き続き、随時パビリオン工程を確認し、適宜、影響検討の見直しを実施。

○今回見直した前提条件

- 万博工事のタイプAについて、既に着手及び着手の予定が明確になったパビリオンは、その着手時期（R6.1月など）とし、それ以外は前回同様、R6.5月着手と想定（全工事車両のピーク日台数は3,436台/日→3,368台/日に減）。
 - 万博・IR工事の通勤車両（万博は夢洲内に1000台の駐車場を整備）を考慮（6時・7時台、17時・18時台に通行）。
- ※インフラ工事車両、一般交通（物流含む）は前回と同様。

○影響検討結果のまとめ



1-2 万博会場周辺の交通課題と対応案【資料4】

- 夢洲内での工事車両・作業員車両の増加を見据え、**会場への出入口増設、工事車両待機場所の確保など、具体策の内容を更新**。
- 引き続き、工事の進捗に応じて状況をきめ細かく確認し、柔軟に対応。

○対応箇所図



※ 今後の調整状況により、変更となる場合がある。

・課題
コンテナ車両及び工事車両の道路上待機による道路通行への影響の可能性

・対応
入場待機場所の確保、スムーズな入場による道路上待機車両の解消

・具体策

【工事車両】	【物流車両】
① 車両出入口増設 (3→8箇所)	④ 待機場所の追加整備 (440台→700台分)
② 工事車両待機場所等の確保 (観光外周道路の活用)	⑤ ゲート時間延長 (早朝・昼休み時間帯)
③ 建設作業員車両用駐車場の確保 (1000台)	⑥ ゲート増設 (17→22ゲート)
	⑦ CONPAS (R5年度本格導入)
⑧ 夢洲北高架橋前倒し完成、工事用として活用 (R6.12→R6.9未完成)	

○対応スケジュール

	令和6年												令和7年				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
工事車両対策	① 車両出入口	3か所		4か所		7か所		8か所		7か所			8か所				
	② 観光外周道路での待機場所					観光外周道路の活用(約1,500m) ※概ね150台分						観光外周道路の活用(約2,000m) ※概ね200台分					
	③ 建設作業員の駐車場等	0台		300台		500台					1000台						
物流対策	④ 待機場所の整備		520台					540台								700台	
	⑤ ゲート時間延長								実施(物流車両や工事車両の多い時期を対象)								
	⑥ ゲート増設		増設工事					システム導入・設備類整備								運用	
	⑦ CONPAS		準備					本格運用									
⑧ 夢洲北高架橋の前倒し					高架橋整備									工事車両車両への通行を活用			

※ 万博関係者の通勤車両の削減等に寄与するよう、Osaka Metro中央線の夢洲駅までの鉄道運行を万博開幕の2か月以上前の令和7年1月末に開業できるよう取り組む

2. 万博開催期間中の交通影響等について ~新規~

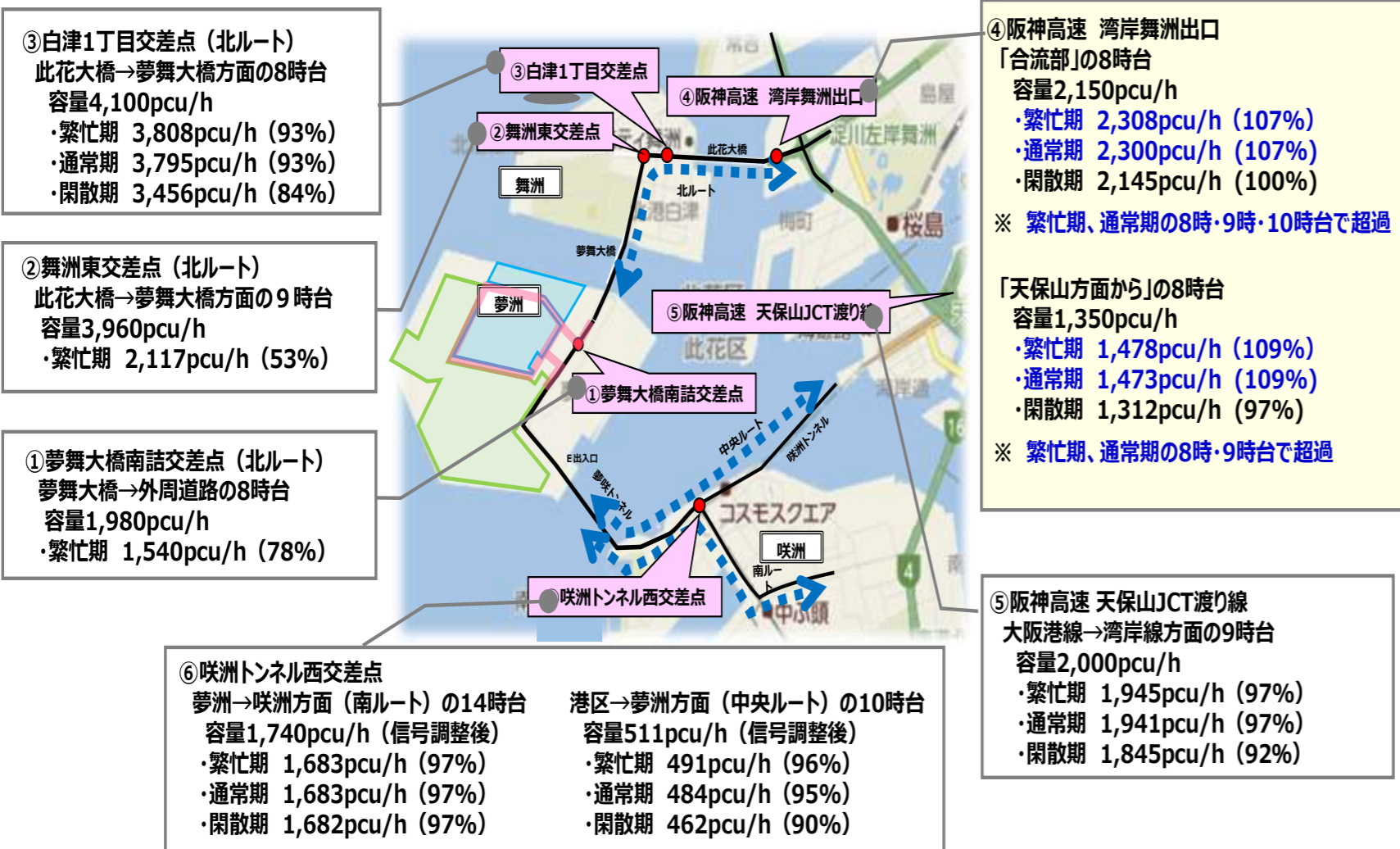
2-1 万博開催期間中の交通影響検討【資料5】

- 万博・IR・物流とも、**全てのピーク台数の予測値を合算し、厳しい条件のもと影響検討を実施。**
- **阪神高速湾岸舞洲出口の繁忙期・通常期においては、8時、9時、10時台で容量を超過。**
- **湾岸舞洲出口以外は、容量内に収まっている。**
- 引き続き、来場者輸送具体方針の更新等、必要に応じて、適宜影響検討を見直す。

○前提条件

- 万博車両：日ピーク来場者（22.7万人）における台数（来場者輸送具体方針 第3版より）
※交通影響が想定される地点は、万博の「通常期」「閑散期」（ともに来場者輸送具体方針 第3版より）のピーク日（20.4万人、13.6万人）も合わせてチェック
※舞洲駐車場の利用を団体バスの駐車台数に応じて、団体バスの最小・最大の2ケースを検討
- I R車両：万博開催期間のうち最大となる令和7年10月時点の車両台数（2,182台/日）
- 物流車両：2025年までの伸び率を考慮した約11,200台/日（ピーク週の平日平均）、咲洲シフト（空コンテナシフト、本船シフト）は考慮しない
- 一般車両：2021年10月の博覧会協会調査の交通量調査結果を反映

○影響検討結果のまとめ【各検討地点の最も厳しい方向・時間帯の結果（超過箇所の車両台数調整を行わず）】



2-2 交通影響検討結果を踏まえた交通容量超過箇所への基本的な対応

【資料5】

- 交通影響検討の結果、**阪神高速湾岸舞洲出口において、繁忙期・通常期の8時・9時・10時台で容量を超過。**
- **容量超過箇所への対応として、以下の対策を実施し、容量内に収める。**
 - ・IR工事車両の通行の時間帯や他の出口の利用等による調整。
 - ・万博来場者車両の時間帯ごとの予約枠のコントロールによる調整。

④ 阪神高速 湾岸舞洲出口【合流部】(繁忙期)の結果

容量超過分を、IRでの調整のうえ、万博においても調整し、容量内に収める



- ・ケース1 舞洲駐車場の利用を団体バス300台、舞洲P自家用車6240台
- ・ケース2 舞洲駐車場の利用を団体バス1000台、舞洲P自家用車3450台

2-3 円滑な交通確保に向けた追加的な対応(案)【資料5】

- 今回の交通影響の推計は、来場者・IR工事・物流全てのピーク台数の予測値を合算し、**厳しい条件で行っており、このような状況が懸念される時間帯等は限定的**と考えられるが、**実際の交通量に一定の変動（一般交通等）が想定されることから、追加的な手法について準備を進めることが重要。**
- 万博開催期間中は、最新のデータから**直近のより詳細な交通量の把握**を行い、**交通影響が想定される場合は、その場所・時間帯等を特定し、対策を実施する。**
- 具体的な**対策手法の抽出**や、**必要性を判断し対策を決定する仕組み**など、**早急に具体化を図る。**